

平成28年度第1回計画評価部会 議事録要旨

日時	平成28年7月8日（金曜日） 午前10時00分から午後0時05分まで
場所	長久手市役所 北庁舎2階 第5会議室
出席者 (敬称略)	愛知県立大学 教育福祉学部社会福祉学科 教授 吉川雅博【計画評価部会長】 長久手市身体障害者福祉協会 会長 金田紀代子 希望の会 会長 青山美奈子 障がい者相談支援センター 相談員 鈴木聖美【児童教育支援部会長】 社会福祉法人あいち福祉会たかぎ作業所 施設長 燈明泰伸【就労支援部会長】 <オブザーバー> 尾張東部地域相談支援アドバイザー 川上雅也 <事務局> 市福祉部福祉課 課長 浅井俊光、課長補佐 近藤かおり、福祉係長 野田聡、 主任 宇井正幸、主事 野村こはる 同子育て支援課 課長補佐兼子ども家庭係長 岡藤彰彦 同福祉施策課 福祉施策係長 堤健二
欠席者 (敬称略)	ほっとクラブ 会長 山口恭美 特定非営利活動法人百千鳥 理事長 竹田晴幸【福祉サービス支援部会長】
議題	(1) ながふく障がい者プランの進捗状況及び評価について ア 第3次障がい者基本計画 イ 第4期障がい福祉計画 (2) その他
傍聴者	0人

議事録

1 あいさつ（部会長）

計画の評価を行うという事例は他でもあまりないため、手探りでの実施となるかと思うが、チェックをしないと意味がない。実施しながら改善していきたいと思うので、協力をお願いしたい。

2 議題

(1) ながふく障がい者プランの進捗状況及び評価について

ア 障がい者基本計画

<資料1をもとに各担当の専門部会長及び事務局から昨年度の目標設定と進捗状況、評価について報告を行い、その後委員で2次評価を実施>

①グループホーム整備への支援

事務局：グループホーム入所希望の方がどのくらいいるのか、ニーズ調査を実施したいと考えている。また、新規参入しづらい問題点はどこにあるのか把握し、その解決に向け協議を行っていききたい。

委員：ニーズ調査は、たとえば事業所など、障がい者と近い関係のところを実施した方が把握しやすいのではないかな。

事務局：今後検討していききたい。

⇒2次評価は、「B」とする。

②グループホームの体験利用の促進

事務局：現在グループホームを運営している市内事業所及び新規参入事業所と連携しながら体験利用を行っていききたい。また、地域生活支援拠点の機能としても活用していききたいと考えている。

委員：グループホームを選ぶにしても、複数のグループホームを体験できた方が良いのではないかな。

事務局：この体験利用は、グループホームがどういったところか知ってもらうことを目的として行うものであり、グループホームの選択のためではないので、複数個所での実施は考えていない。

⇒2次評価は、「B」とする。

③基幹相談支援センターの設置

事務局：周辺自治体の状況について調査を行ったので、それをもとに本市に合った内容を検討していききたい。

部会長：協議の途中経過は、どこかで示されるのかな。

事務局：2か月に1回ほど開催している事務局会議で検討しながら、内容を決定していく。

⇒2次評価は、「B」とする。

④個別訪問調査の実施

事務局：サービス利用など、地域とつながりがなく孤立してしまっている人をみつけ、現状についての調査を今年度中に開始したい。

委員：調査を実施した後のフォローが重要となってくる。気になる人リストなどをつくるべきであり、現状が分からなかった人こそフォローが重要である。

部会長：調査の時期は決定しているのかな。

事務局：対象者を今月中に抽出し、秋頃に開始したいと考えている。

部会長：そのスケジュールを進行管理シートに記載するのも良いと思う。

⇒2次評価は、「C」とする。

⑤乳幼児期からの療育支援体制の整備

担当部会長：既存の社会資源について整理した。今後は、療育支援体制基本構想（仮称）を作成し、具体的な協議に入っていきたい。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑥各保育園等への巡回相談

担当部会長：昨年度は、まずは顔のみえる関係づくりという視点から、保育機関・学校機関への周知を目的として実施した。相談を実施したところからは、機関と相談員と役割分担ができるようになったという声もあった。ただし、保育園ごとに活用方法に差があったり、教育機関への巡回相談があまりできていなかった。先生が問題だと感じていなくても、後々問題となってくる子もいるので、今年度は定期的に巡回するようしていきたい。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑦スクールソーシャルワーカーの設置

事務局：平成28年度の設置に向け、昨年度は予算の確保や設置方法について検討した。今年度から2名の相談員を教育委員会に配置しており、学校や保護者からの依頼により、随時相談を行っている。しかし、担当課によると福祉職専門の者でもないため、スクールソーシャルワーカーという位置づけまでには至っていないとのことである。

委員：相談窓口がいくつもあり、学校の先生が全体像を把握して、整理することができていない。

部会長：窓口ができたらできたで、どこに相談したら良いのか分からないということもある。

委員：定期的に障がいの相談員とスクールソーシャルワーカーとが意見交換する場を設けた方が良い。スクールソーシャルワーカーが孤立してもいけない。

委員：相談先が増えて機動力が低下するということもある。進行管理する機関をきめておくなど、気をつけないといけない。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑧農業を活用した雇用機会の拡大（農福連携）

担当部会長：事業所ごとに農業者と協力しながら農作業を行っているが、事業所間の連携がとれていない。

部会長：あくまでも平成27年度の目標に対する評価である。平成27年度の目標からすると、目標は達成しており進んでいる。

⇒自己評価は「B」であったが、2次評価は、「A」とする。

⑨就労支援コーディネーターの設置

担当部会長：既存の社会資源の把握ができたが、調べてみるとたくさんあり、活用ができていないだけである。そうした既存の社会資源との役割分担が必要かと思う。

事務局：市議会でも話題に挙がったものだが、もう少しスピード感を持ってやってほしいとの話があった。必要とされているものなので、現在後期目標となっているが、前倒して実施していきたい。

委員：障害者総合支援法の見直しで、国でも就労定着支援について協議を進めている。そうした国の動向についても、今後注視していく必要がある。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑩市役所での就労体験の実施

担当部会長：市役所での就労体験の準備として、市が依頼できる作業を調査する予定であったが、この事業の目的や趣旨がはっきりと決まっていなかったため実施できなかった。

事務局：先日市内就労移行支援事業所に集ってもらい、この事業について協議を行った。それにより方向性が決まったので、近々調査を実施できるかと思う。

⇒2次評価は、「C」とする。

⑪支え合いマップづくり

事務局：現在6地区で支え合いマップづくりを行っているが、まだ自主活動ができていない状況である。自主活動に向けて改善の検討が必要である。

部会長：改善の検討が必要ということなら、平成28年度の目標を変更しなくても良いのか。

事務局：中長期目標を立てて、月ごとに見直し改善を検討している。この支え合いマップづくりの目的は、どのような困っている人がいるのか見える化することにある。この取組を今後も継続していきたいと考えている。

委員：問題のある人がいたらどのような対応をするのか。

事務局：ひきこもりのケースの場合、イベントを開催し参加を呼びかけているところもある。

事務局：個人情報の問題もあり、取り扱いが難しいと感じる自治会もある。

委員：確かに、このようなマップづくりは各地で行われているが、個人情報での問題はないのかと感じる。

事務局：マップづくりを行う際は、知り得た情報を口外しないように説明している。

委員：マップづくりに集まるのはどのような人か。

事務局：50～80世帯を一つのグループとしており、その地域の人が参加している。

部会長：参加する人みんなで共通理念が持てると良いと思う。評価については、マップづくりを行っているため、Bで良いと思う。

⇒自己評価は「C」であったが、2次評価は、「B」とする。

⑫障がいのある人と地域の人とが交流できる場の提供

事務局：西小校区共生ステーションでは、「子育て・いきがい・ケア」の3つのテーマに合わせて地域住民がプログラムを行っている。障がい者に特化した取組はないが、障がい者の方でも参加していただける。

部会長：障がいは特別なことではないので、分ける必要はないかと思う。

委員：自分たちも外に出ていこうということで、団体（当事者の親の会）の会議を共生ステーションの会議室で行ったりしている。

委員：障がいのあるお子さんをあまり外で見かけない。だから将来について不安も大きくなるのだと思う。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑬移動支援の支援員の人材育成

事務局：作業部会を設置し、協議を行っている。まずは、移動支援事業を必要としている人がどのくらいいるのかニーズ調査を行いたいと考えている。

⇒2次評価は、「B」とする。

⑭成年後見制度の普及啓発及び理解促進

事務局：支援が必要な人には、成年後見制度について周知をしている。ただし、平成27年度の市長申立件数は0件であった。

部会長：長久手市でこの制度を必要としている人はいないのか。

事務局：周知を図っているが利用者はいなかった。過去からみても障がい者に限って言えば0件である。高齢者については、数件の実績がある。

委員：支援のつなげ方の問題もあるかと思う。また、担当者の意欲に左右されることもあるかと思う。市長申立の件数が「0」ということはないはずである。

部会長：市長申立の件数が、その市のバロメーターとなる。ぜひとも件数を上げてほしい。

⇒2次評価は、「B」とする。

イ 第4期障がい福祉計画

<資料2をもとに事務局から昨年度の実績について報告>

委員：放課後等デイサービスが最近増えてきたため、選ばれる傾向となった。それぞれの放課後等デイサービスが特色を出して運営していく必要がある。

(2) その他

事務局：ながふく障がい者プランは3年ごとに見直すこととしており、来年度改訂作業が必要となってくる。この計画評価部会をベースとして改訂作業を進めていきたいと考えているため、協力をお願いしたい。

閉会